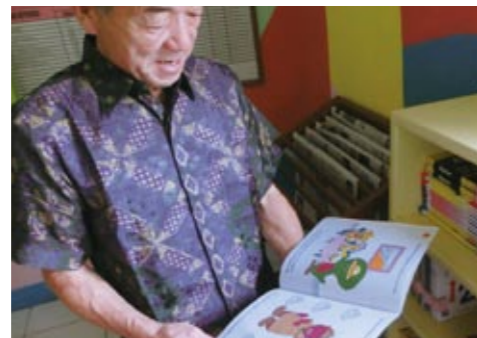


■新春特別企画

夫に託して実現させた生前の想い  
国境を越えた地で夢の花が咲く

- 完成した図書館視察のために保文さんが10月に訪問。学校関係者全員から熱烈的な歓迎を受けた。
- ↓ 【下2枚】インドネシアを代表する世界遺産「ボロブドゥール」。9世紀前半に建てられた大乘仏教施設で、遺跡内には多くの仏像が点在している。



← 蔵書数538冊の図書館内を見学。



← 子どもたちとの会話をしながらオリーブの苗木を植樹。交流の輪を広げた。



profile 【なかしま・まさこさん】  
▶ 昭和32年生まれ。享年55歳。伊方小・方城中出身。22歳で、養護教員として八女市郡の小学校に赴任し、教育に情熱を注ぐが、現職中の平成23年7月に他界。生前からの夢を夫が引き継ぎ、退職金がインドネシア図書館建設支援に充てられた。



# 夫に託して実現させた生前の想い 国境を越えた地で夢の花が咲く 故・中島方子さん

インドネシア・ケンブラック村の小学校に図書館を建設

「わたしが死んだとき、退職金をインドネシアの学校建設支援に捧げてほしい」。平成23年7月、志半ばでこの世に別れを告げた中島方子さん（旧姓・桑野）が、夫の保文さんに託した最後の言葉だ。

福智町伊方で育った方子さんは22歳で、養護教員として八女市郡の小学校に赴任。以降33年間、教え子の教育に情熱を注いできた。多くの子どもたちと接する教員生活の中で、退職しても子どもたちと関わっていたいと考えていた方子さん。保文さんが教育環境支援などの活動を行う公益財団法人「オイスカ」の会員で、貧困や教材不足などの理由で勉強したくてもできないインドネシアの教育環境を方子さんに話したことをきっかけに、いつしか「退職したら現地に学校を建設しよう」が夫婦共通の夢となった。そんな2人が、予想だにしない事

## 亡き妻の夢が叶う異国の地

「中島夫人が子どもたちの教育を愛える気持ちに感謝します。この図書館を通じて十分な教育ができるように努めますので、どうか天国から子どもたちの成長を見守りください」。カラングニアル県ケンブラック村に「MASAKO BUNKO」と、名付けられた図書館が平成



↑ 「亡き妻の願い叶いし異国の空」と書かれた石版が図書館の壁に埋め込まれ、方子さんの夢に感謝するとともに、それを支えた保文さんの功績をたたえる。

態に見舞われる。方子さんがガンを発症。そして、「目の前が真っ暗になったような感覚でした」と当時の心境を語る保文さん。最良のパートナーの計報を受け、打ちひしがれるも、生前の方子さんがよく保文さんを勇気づけるために言った言葉「あなたはできるでしょ、今しなさい」が、頭をよぎる。すぐに現地と連絡を取り合い、住民が熱望していると聞いた「図書館建設」へと踏み切り、夢のタスキを引き継いだ。

24年6月16日に完成。その記念式典の冒頭で、カラングニアル県知事が感謝の言葉を述べた。式典には知事をはじめ県議会議長、地域の校長会の会員など約320人が出席。最後は子どもたちが伝統舞踊を披露し、夫婦の功績を彩る華やかなものとなった。

「世界中のすべての子どもたちが日本と同じような初等教育を受けられるようになってほしい」。妻が残した意思を引き継ぎ、夢を一つ叶えた保文さん。6月に行われた完成記念式典には出席できなかったが、「10月に訪れたときに見た、キラキラと目を輝かせながら本を読む子どもたちの姿が忘れられません」と、胸を躍らせた。

「次は当初からの夢、学校を建設したい。そして今後も妻と描いた夢に向かって励みたい」と先を見据えて目を細める保文さんには、亡き方子さんの意思が確かに息づいている。

## 世界の現状に目を向けて

人口2億4,000万人以上のインドネシアでは、1日2ドル未満で暮らす貧困層の割合が国民の半分、1億人を超すと推定されています。その中で生活する子どもたちは、勉強をしたくても、するためのお金も時間もないのが現状です。日本の義務教育では、授業料や教科書代無償が当たり前。現地の子どもたちと比べると、勉強に対するハングリー精神が不足しているように感じます。ぜひ、世界の現状に目を向け、当たり前として過ごしている日常に感謝しながら勉強に励んでほしいです。



中島 保文 さん



↓ 完成した「MASAKO BUNKO」。図書館に必要な本や机、椅子などの備品もすべて、方子さんの支援で整備された。